

広い!

ワクワク!

泊まれる!

ウィプスネード動物園を征く

秋の行楽シーズンにお勧めしたい郊外型動物園が、ベッドフォードシャーにある。都会の動物園では味わえない開放的な気分を味わえるウィプスネード動物園 Whipsnade Zoo だ。ロンドンから気軽に出掛けられ、ロンドンっ子にとっては子供時代の思い出の地としてもお馴染みだというこの地を、今回は征くことにしたい。



脳腫瘍で急逝した、情熱の創設者

「ZSL」という名称に見覚えがある読者は多くおられるのではないだろうか。「ZSL」とは「Zoological Society of London」の頭文字からなる略称で、ロンドン動物学協会(以下ZSL)をさす。同協会はスタンフォード・ラッフルズ(1781~1826年)が中心となり1826年に設立された、学術研究を支援する慈善団体だ。歴代の協会員には、英国史上最も偉大な人物のひとりに挙げられる自然科学者、チャールズ・ダーウィンも名を連ねる。

創設の目的は、動物を収集し、その生態などを学ぶこと。ちなみに創設者のラッフルズは東南アジアの植民地建設者として活躍し、シンガポールの創設者としてあまりにも有名な人物。同時に東洋研究に没頭し、動物学にも造詣が深い人物であったことも広く知られている。世界最大の花『ラフレシア』の発見者のうちの1人で、花の名は彼の名前にちなんでいる。

そんなラッフルズが晩年尽力したのが、ZSLの設立と動物園の開園だ。しかし、ラッフルズはZSL設立後、初代事務局長に就任するも、その数カ月後に脳腫瘍により44歳という若さで息をひきとる。自身の研究の成果を余すことなく注ぎ込もうとしていた矢先、動物園の開園を待たずに永眠したラッフルズの無念は、察するに余りある。

ラッフルズが没した2年後の1828年、リージェンツ・パークの北端に世界初の科学動物園「Zoological Gardens」が、現在の「ロンドン動物園 London Zoo」の前身として開園。当初はZSL会員及び会員からの紹介状を得た者のみ公開されていたが、1847年に研究費用の調達を目的として一般にも公開されるようになった。今日では、家族連れなど多くの人々に愛され続ける動物園となるに至り、足を運んだことのある読者も多くおられることだろう。

当時、英王室が諸外国から贈られたのち、ロンドン塔で飼育されていた珍しい動物たちが寄贈されたことなどもあり、同園は開園から間もなく、世界で最も広範な動物を有する場となった。時代は万国博覧会をはじめとする博覧会ブーム。集めたものを見せる(披露する)ことが流行しており、日本でも1882年に上野動物園が開園したが、英国は一步も二歩も前を行く存在だったのだ。

目指せ、理想の動物園

一方で、20世紀に入ると西欧諸国では動物園のあり方として、特に大型の動物は野性の生態に近い環境で飼育する必要があるとの認識が生まれる。当時まだ多くの国では動物をせまい檻に入れて展示していたのに対し、進んだ考え方だったといえるだろう。



トマス・スタンフォード・ラッフルズ Sir Thomas Stamford Raffles (1781～1826)は、英国の植民地建設に携わり功績を立てた。シンガポールの創設者であり、名高い「ラッフルズ・ホテル」は、同氏の名前にちなんで名づけられた。1817年に描かれた肖像画 (George Francis Joseph 作)。

当時のZSL事務局長ピーター・ミッチェルズは、野性の生育環境に近づけるために、十分な敷地面積を持ち、かつロンドン市民が訪れやすい場所に新たな野性動物園を作る必要があると考え、ロンドンから70マイル(約110キロ)以内、面積200エーカー以上という条件のもと、土地探しをはじめた。

1926年、ロンドン動物園から北西に約30マイルのベッドフォードシャーに位置する、ワイプスネード村の近く、ダNSTAPル丘陵地帯に、約600エーカー(東京ドーム約52個分)という理想的な土地を発見。農産物業界の不況から、安値で売りに出されていたこの農地を、これ幸いとばかりに購入した。

1931年、ロンドン動物園の姉妹動物園として、「ワイプスネード野生動物園」からM1を北へ車を走らせること1時間弱。厚い雲に覆われた空に不安を感じながらも、動物園へのサインを頼りに車を走らせ、迷うことなく到着。家族連れですでに賑わう園外の駐車場に車をとめた。

擬似サファリ体験もできる場所

いつものまにか雲は流れ去り、日の光が差し始めている。周囲に広がる丘の景色

を眺めているだけで、のどかな気分になってくる。同園は、車の乗り入れが一部可能という珍しい動物園だ。車を乗り入れる場合は、チケット売り場などがあるエントランスの右隣にある専用の入園ゲートへ。同園に隣接する専用駐車場は無料だが、園内への車の乗り入れは有料だ(予約不要。1台につき22ポンド、ZSLメンバーは半額)。園内にも駐車場が整備され、園の外周をぐるりと巡る道路を、徐行運転でまわることができる。仕組み。ただサファリではないので、車を止めては車外に出て動物を見学するという一風変わった体験になるだろう。また、さらに限られたエリアについては、「Passage Through Asia」がアジアゾーンの外周を巡るように設置されている。こちらは、シカやラクダが放し飼いになっている中を車で走る形になるので、写真、プチ・サファリ気分を味わえそ



うだ。今回取材班は、この広い動物園を徒歩で見学。歩数計を装着し、気合い十分で取材に挑んだが、とにかく広い！前述のように園内を車で走る方法を取らない場合は、ひたすら歩くことになる。駐車場に到着した際、子供用スクーターに乗った多くの子供たちの姿が目飛び込んできて驚いた。ロンドン動物園では見かけることのない光景だが、この敷地面積なら納得。スクーターの持ち込みが許可されているのは、少し歩いただけで疲れてしまう小さな子供にとっても、親にとっても嬉しいかぎり。ただし、スクーター禁止のサインが掲げられた区域もあるのをご注意を。さて、今春オープンしたばかり、モダンに生まれ変わったエントランスで、地図と餌やりなどのスケジュール表をもらったら、洒落た土産物が並ぶショップに後ろ髪を引かれつつも、いざ、動物たちの待つ園内へ！キリンやサイ、ゾウ、クマ、トラ、ライオンなど、花形といえる大型動物を中心に、どこから見学するか予定を立てて行動することを勧めたい。では、次の見開きページで園内をご紹介します。しよう。



■メインの写真…シロサイ (White Rhinos)
 ■下の写真 (左から)…宿泊できるルックアウト・ロッジ (Lookout Lodge)、ミニ蒸気機関車 (Jumbo Express)、ペリカン (Pelicans)、シーライオン (アシカ)・スプラッシュ・アリーナ (Sealion Splash Arena)、キリン (Giraffes)

ウィプスネード動物園

おもいきり楽しむための園内ガイド



◆ 右図はウィプスネード動物園の概略図。動物は、もともとの生息地域によりエリアごとに分類されている（一部例外あり）。

◆ 「Base Camp」

エントランスから入ってすぐに広がるエリア。鳥やアシカのショーといったイベントが行われる会場、様々なセンターなどがある。地図上、オレンジの数字で表示。

◆ 「Asia」

地図上、グリーンで表示。

◆ 「Europe」

地図上、ブルーの数字で表示。

◆ 「Africa」

地図上、レッドの数字で表示。

◆ その他の施設

カフェや宿泊施設、蒸気機関車の駅など。地図上、パープルのアルファベットで表示。



★遠くの景色まで見渡せるビュー・ポイント。ベンチもあり、取材班イチオシの休憩エリア。

Base Camp

① キツネザル Lemurs

よく手入れされたイングリッシュ・ガーデンのような飼育舎で放し飼いにされている。見学通路と飼育エリアを遮るガラス窓はないので、キツネザルが見学者の間近まで近寄ってくることもある。朝のトーク&フィード（エサやり）は、時間があえばぜひ見学したい。



② チンパンジー Chimpanzees

ひょうきん者のチンパンジーたち。それぞれのプロフィールやキャラクターなどを紹介してくれるトーク&フィードで、飼育員の詳しい解説を聞けば、より彼らへの愛着が沸くだろう。

③ ディスカバリー・センター Discovery Centre

カメやイグアナといった爬虫類、熱帯の昆虫などを紹介する室内展示場。園のオープン当初からこの地に建つファーム・ハウスは、かつてはレストランとして使用されていた。食事客は窓辺にやってくる放し飼いのラマやシカにエサを与えることができるとして人気を集めたが、動物へのエサやりは60年代後半に全面的に禁止となった。



④ バタフライ・ハウス Butterfly House

今年5月にオープンした施設で、巨大なビニールハウスのような外観が特徴。一歩足を踏み入れると、極彩色の蝶が飛びかう（触れないように！）。また、入口横のガラス越しにいる迫力満点のクロコダイルもお見逃しなく。専門家によるトーク・タイムあり。



⑤ ファーム Farm

小さな子供向けのエリア HullabaZoo の一角にあるファーム。ヒツジやヤギが放し飼いにされている。トーク&フィードあり。

⑥ アウトドア・プレー Outdoor Play

子供たちお楽しみのプレーグラウンド！こちらも今年の5月に新しくなってオープンしたばかり。登って、くぐって、渡って、すべて、ジャンプして！ここで立ち止まらない子供はいないはず！時間が足りなくなる可能性大!?



⑦ シーライオン・スプラッシュ・アリーナ Sealion Splash Arena

1日に3回、大人気のアシカ3頭のデモンストレーションが行われる（平日については、ショーの有無、および回数/時間が変更となる場合があるのでご注意ください）。見事な演技で時にコミカルに、時に真面目に!?

自然環境保護の啓蒙活動にいそむアシカたちが大活躍！前列の一部の席は、いたずら好きなアシカたちに水しぶきをかけられることがあるかもしれないので要注意！



⑧ バーズ・オブ・ザ・ワールド・アリーナ Birds of the World Arena

五色のコンゴウインコが並んで優雅に大空を舞い、眼光鋭いフクロウやタカが観客の頭上すれすれを飛びかうデモンストレーションには、観客たちも大喜び。開催時間については、現地でご確認を。



トラベル・インフォメーション

※ 2015年9月15日現在

ZSL Whipsnade Zoo
Dunstable, Bedfordshire LU6 2LF
Tel: 01582 872171 www.zsl.org/zsl-whipsnade-zoo

■ オープン時間

～2015年10月24日： 10:00～17:30
～11月1日： 10:00～16:30
11月2日～： 10:00～16:00
年中営業（12月25日のみ休園）

■ 入場料

大人 £22.70 子供 £16.35（3歳以下無料）
ファミリー割引等あり
※ ZSLメンバー無料

■ ロンドンからのアクセス

車…ロンドン中心部からM1を北上し、A5を経て約1時間。
公共交通…ロンドン・ユーストン Euston 駅からナショナル・レールのヘメル・ヘムステッド Hemel Hempstead 駅まで約30分。駅からX31番のバスで約30分。「Opp Whipsnade Wild Animal Park」バス下車。

広大な敷地を歩いてまわるのは結構な重労働。疲れたときは、園内を巡回する、無料の「サファリ・バス」を利用するのもいいだろう。

